

かながわの風

34
January
2022

<http://www.kacsw.or.jp>



会員番号(No.48447): 上山 由美子氏 撮影

コロナ禍臨時特集 第5回

社会福祉士とわたしp.5

- 年頭所感「新しい年を迎えて」 p.2
- 支部長に聞く! 今年の支部の抱負 p.3
- 多文化ソーシャルワーク委員会の活動報告 p.4
- 社会福祉士への問いかけ p.6
- 2021 (令和3) 年度 理事会報告 p.7
- 公開講座・研修情報 p.8





年頭所感



新しい年を迎えて



すみ こう ち
会長 隅河内 司

2022年(令和4年)、新しい年を迎えました。神奈川県民の皆様と会員の皆様には、日頃から本会の活動にご理解とご支援を頂き誠にありがとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。

昨年は、一昨年末から続く新型コロナウイルス感染の拡大で、私たちの生活は一変した日々となりました。夏のオリンピック開催以降には感染爆発とも言われた第5波の感染拡大に見舞われ、私たちはこれまで経験したことがないような日々を過ごしてきました。昨年の年頭には、『新しい年を迎えた今、新型コロナウイルス感染症は、今後ワクチンの接種や治療薬の開発が進められ、収束に向かうことになるかと思われませんが、』ということを申し上げましたが、この感染症との闘いがこのように長期に渡るとは誰もが想像だにできなかった事であり、私たちの生活には、未だにさまざまな面で大きな影響が続いています。現在も残念ながら確実な収束には遠く、しばらくは予防対策に努め、感染拡大を最小限に止めるように個々に努力をしていくことが大切な状況にあります。

さて本会では、このような時期にあっても、この感染症と向き合う社会状況の変化に伴い、県民の皆様への講座、会員の皆様への研修、支部での活動や本会の会議等、人が直接対面せずともその内容の実現を可能にするために、早くからオンラインによる取り組みを行い、その充実には奔走した1年でした。本来なら集合して実施してきたものなので、それは初期には多くのもどかしさが目立ちました。しかし、慣れてくると、オンラインによる方法だからこそ、遠方でも体力や時間を気にせず参加ができる、子育て中や介護している中でも無理なく活動できる等といった利点の声も聞かれるようになりました。今まで集合することが当たり前と思っていたことも、別の誰かにとっては機会の不平等だった、それを解決する1つの方法にもなり得ました。

また、昨年夏には、神奈川県社会福祉会館が取り壊しになり反町駅前への拠点を移し、神奈川県社会福祉センターという名称に変わりました。それに伴い本会の事務局もセンター内に移転し、8月1日から新しい場所で事務局業務を開始致しました。会の中核となる事務局業務環境の整備をはかることが出来ました。

今年も、感染対策に留意しながらその状況に合わせ、集合による活動、オンラインによる活動を併用し『ソーシャルワーク団体として、学びの機会を止めない』ために、今後もいっそうの工夫を凝らして、様々な対象に働きかけを行っていくことに努めてまいりたいと思っております。

本会は2013年に公益社団法人となって、来年には10年目を迎えようとしています。この節目に際し、会員の増強や体制の見直しなど組織強化に向けた検討をすすめていきたいと思っております。社会福祉士は「地域共生社会の実現」の担い手として期待されている存在です。それぞれが抱える生活課題を社会問題として捉え、問題解決に向けて努力すること、個人の努力だけを強いることのない社会、人として寛容な社会、分断と排除を許さない社会、その「共生社会」の実現に向けて邁進することこそがソーシャルワーカーに与えられた使命であり、その使命をより発揮できる本会の組織づくりを目指したいと考えます。コロナ禍という言葉を生み出した日々の中で、感染対策への考え方、支援の場面での対応の仕方、周囲の人との関わりの中のあらゆる場面で、そこには分断は起きていないでしょうか、排除はないでしょうか。温かい視点を持っているでしょうか。

省みる謙虚さと改革する強さを失わずに、「ソーシャルワークの専門職団体」として支え合うことができる「共生社会」を目指して、今年も皆様方と一緒に県民の福祉の向上に取り組んでいきたいと思っております。

今年の支部の抱負

～今年の支部活動を漢字1文字で～

川崎支部

支部長 平山 みちる

動

新型コロナウイルス感染症の収束が見えないまま、3年目の新春を迎えました。

この間、政治・経済・社会の著しい変貌だけでなく「3密」は人間関係の距離にも大きな変化をもたら

し、個やニーズが見えにくくなった一方で、想定を超えた急速なデジタル社会の進歩は、多様な考え方や繋がり方の発見となりました。

ともあれ、今年は、もう「静」から「動」へ進む年。

新たな日常を、おおいに語り笑い合い、多様性を認め合う社会に向かいながら、かつ歩していきましょう。

横浜支部

支部長 江原 顕

包

従来から「地域包括」や「社会的包摂」などといった理念が謳われていますが、新型コロナウイルスで人間同士の接触が減り、今こそ、こうした理念の重みを認識させられます。

そこで、今年の意気込みとして漢字1文字で「包」とし、改めて、地域共生社会に向けた取組を我々社会福祉士一人ひとりが行ってきたい。そんな思いです。

なお、支部キャラクターの「ハグミィ」にも「包容」の意味が込められているとかいないとか。

県央支部

支部長 末永 都生夫

活

長引くコロナ禍の影響により、仕事を失った人、経済的困難から衣食住が十分に確保できなくなった人、さらには居場所を失い孤立を深めている人など、支援が必要な理由は様々です。中でも、孤独・孤立の問題は、一層深刻な社会問題となっています。そこで、今年の県央支部の重点目標は、地域住民の「孤独・孤立」を解消し、「活気」を取り戻すことに着目します。誰一人として、「ひとりぼっちにしない」ためにどうすればいいかを会員同士で考え、実践していきたいと思ひます。

湘南東支部

支部長 小野田 潤

信

「信頼」の「信」を挙げさせていただきました。「信」とは誠のことを示し、孔子のいう「仁義礼智」が発揮されていれば信(誠)は達成されると言ひます。「信頼」は人としての行いの結果でもあります。人との関係性において基礎となる「信頼」。対人援助におけるコミュニケーション技術のみでなく、自らの日々の行いを意識してこの1年を過ごしたいと思ひます。支部活動においては、誰でも何でも率直に話し合ふことができ頼りになる組織、チームとしての信頼の構築に力を注ぎたいと思ひます。

西湘支部

支部長 重本 晴賀

進

新型コロナウイルスの猛威から早2年。徐々に日常生活を取り戻しつつも、変異株の出現により落ち着いた日々が続いていると思ひます。昨年度より研修部・広報部・組織向上部を構成し、オンラインを中心とした支部活動を展開しました。

今年度も『生きづらさを抱える人々』のテーマを継続し、様々な課題に直面した方々へ焦点を当てていきます。多様なツールを活用し、前進しつつ会員相互の繋がりを更に寛げていきます。

湘南西支部

支部長 和田 貴子

展

コロナ禍の2年間は、感染を避ける為に集合での会合は控えてきました。会員間で繋がる為に、オンラインでの活動が急速に進みました。オンラインは、会場に行かなくても会議や研修に参加でき、情報・知識を得る事や、遠隔地の方との交流も可能になり、顔の見える関係性が作れることを学びました。感染予防対策とはいえ、直接対面する機会はかなり減りました。湘南西の今年度の支部活動も、コロナが終息するまではオンラインを中心に行う予定です。会員間では、それぞれの専門性の連携や、職種・地域の情報共有を目的として、支部会員同士のネットワークの形成を、さらに発展させたいと思ひています。

相模原支部

支部長 小野澤 和美

和

コロナに翻弄され、集う機会が少なくなっています。今年こそは、集まって思いを語り合う場を持たらと考へています。

そんな思いを込めて、今年の一文字は、「和」にします。「和」には、輪になって話し、和みの時を送り地域のこと、私たちを取り巻く課題に積極的に向き合っ、前向きに活動しようという思いを託します。

横須賀・三浦支部

支部長 吉田 勝利

風

「友よ、その答えは風に吹かれているのだ」(The answer, my friend, is blowing in the wind) 1960年代に作られた曲の1節。私たちの支援の答えは風に吹かれてやってくるのか。風に吹かれて飛んで行ってしまふのかだれにもわかりません。私たちひとり一人がひとつの考へに囚われず広い視野と好奇心をもって風の中にある答えを求めて2021年度活動を行っていきたく考へています。

※「風に吹かれて」(Blowin' in the Wind by Bob Dylan)

多文化ソーシャルワーク委員会の活動報告



委員長 平田美智子

2020年度に発足した多文化ソーシャル委員会では、多文化共生社会で活躍できる社会福祉士の人材育成に加え、県民の皆さんの学びの場とネットワークづくりを目指し活動しております。

2021年もコロナ禍ではありましたが、オンラインで研修を重ねて参りました。

県民講座「日本から、地域から発信する多文化ソーシャルワーク」(2021年5月開催)

講師は、井口健一郎氏(社会福祉法人小田原福社会理事、多文化ソーシャルワーク委員会委員)で、68名が参加しました。同法人特別養護老人ホーム潤生園(小田原市)では、質の高い介護サービスを提供しており、外国人介護職(技能実習、特定技能、留学生)も学べる環境が充実している他、海外視察も多いそうです。講師は、国内外での研修講師も多々務めており、今後私たちがどのような職場づくりをすべきか、外国人介護職を支援するか、共に学び合うかを考えるきっかけとなりました。

県民講座「相談援助のコミュニケーションとやさしい日本語」(2021年9月開催)

講師は、村上まさみ氏(早稲田大学日本語教育研究センター非常勤講師・多文化高齢社会ネットかながわ委員)で、50名が参加しました。社会福祉士が多く参加した背景には「施設で働く外国籍の方が増え、社会福祉士の立場で関わることも増えている」こと、そうしたなか本講座を通し「社会福祉士以外の職種の方々とも交流できよかった」、「言葉のユニバーサルデザインの視点を学び、有意義な講座だったとの声」が聞かれました。「やさしい日本語」は、人と人とのコミュニケーションの中で工夫され、ともに育てていくものであること、そのために必要な視点をワークも交えて気づき、学ぶ貴重な時間となりました。

認定社会福祉士認証研修「多文化ソーシャルワーク研修」(2021年10月開催)

本年度はオンラインで全国各地及び海外から48名が参加しました。2日目のグループワークの演習では、参加者から提案していただいた事例等を使って、地域での支援を多文化ソーシャルワークの視点で検討し、活発な議論がなされました。今後は、多文化の視点での事例研究のツールを委員会内で開発していきたいと思っています。



本委員会の今後の活動ですが、まずは現場の社会福祉士やソーシャルワーカーの方々に、多文化ソーシャルワークを学び、実践に生かしてもらえるように研修に力を入れていきたいと思っています。第2に、県民向けの多文化理解講座や外国人県民との交流を企画・運営していきます。第3に、社会福祉士会が外国人の相談に対応できるような仕組みづくりを模索していきたいと思っています。

社会福祉士とわたし



△▽△▽△▽△▽△▽△▽△ 横浜支部 安信昌子さん

現在、保育園で保育士、横浜市地域ケアプラザ地域交流サブコーディネーターとして働いています。私の苗字をとって「安心して信じてもらえる人になる」これが私の人生の指針です。

2009年一人娘を出産し育児に悩む私に寄り添ってくれた保育士さんやソーシャルワーカーさんをきっかけに保育士になりました。

保育現場では保育士の抱えている現状や、専門スキルに悩む姿と出会っていきます。

同時に様々な保護者の方と出会っていく中で自分の不甲斐無さを痛感しました。

「聴くこと」「繋げること」…もっと勉強しなければ、と自分を鼓舞し、社会福祉士を取得。

社会福祉士会に入会し学んでいく中で、相手の価値観を尊重することや自分自身が資源の一部なのだという事を学んでいきました。専門職としての在り方を学ぶ私は、「保育園に地域の人達を繋げていくことは子どもたちや保育士にとって、人としての幅が広がっていくのではないか」と感じました。

いつしかそれは「社会福祉士として保育園で働き地域をつなげる」という夢になります。

しかし、保育業界では「社会福祉士」の存在自体が知られていません。

「社会福祉士を知ってもらいたい」それを実行に移したのは昨年9月に行われた厚生労働省後援の「保育ドリームプランプレゼンテーション」でした。

「地域とのつながり」とは何か？を発表し「共感大賞」を受賞。受賞後「社会福祉士」の価値を多くの方々に知って頂けました。半年に渡り10分のプレゼンを制作していく中で、つながりを欲していたのは自分自身だったこと、そして仲間に出会っていき自分にも人を元気にする力があるのだと、気づいていきました。

街にあふれている「つながり」という魔法の言葉。

人は本当に安心して「つながった」と思っているのか？

そう感じるのも新しい土地に転入し地域の人達とつながれなかった当時の自分自身を思い出すのです。あふれる情報誌の中には掲載されていないローカルルールが存在しました。「地域に溶け込めない」ことにどんどん孤独を感じ、積極的になれない自分の事や家族を責めてしまいました。ちょうど同じ頃、ケアマネジャーをしていた母をがんで亡くします。転入してくる3日前のことでした。人は色々な環境下で暮らしているのだ…とこの時身を持って感じました。

この街で孤独に悩む人がどれほどいるのか？そして、そんな中で人とつながった時、自分の持つ力が最大限に発揮できるのだという「人と人とのつながりの大切さ」に気づきました。地域とは何か？つながりとは何か？あなたにとってのつながりとは何か？「ほんまもののつながり」をつくるために、そして一人一人が心から笑えるような地域をつくれるように社会福祉士としてこれからの人生をかけて精進します。



社会福祉士への問いかけ

～初代会長 伊東裕二郎様を偲んで～

2021年12月 金井守

1 初めに ～伊東様の死去と残された問いかけ～

2021年(令和3年)9月10日、伊東さんが亡くなった。87歳だった。亡くなる4か月余り前に伊東さんを訪ねた。高齢者施設について知りたい、息子さんと一緒に敬愛の園(昭和36年から4年間ほど職員として働かれた。息子さんは敬愛の園の職員住居で誕生された。)を訪ね、まだ伝えていないことを伝えたいとお話だった。その時に社会福祉士の存在が見えにくくなっていやしないかと話されていた。

伊東さんの伝えなかったこととは何か、社会福祉士に何を期待していたのか、問われていると感じた。

2 資格制度創設、社会福祉士誕生、社会福祉士会設立、会長就任

1992年(平成4年)11月の神奈川県社会福祉士会の設立から1995年(平成7年)まで伊東様が初代会長を務められた間、私は理事の一員として関わらせていただいた。設立総会には37名の方が参加した。日本社会福祉士会の設立は翌1月15日だった。神奈川の会結成の動きは速かったのである。設立時の理事は県内の福祉のリーダーの方々が結集していた。

1987年(昭和62年)5月、「社会福祉士及び介護福祉士法」が公布された。同法施行2年後の1989年(平成元年)3月に第1回社会福祉士国家試験が行われ、伊東様は、公務員ルートの受験資格で第1回試験に合格した。社会福祉士に合格した人々でソーシャルワーカー協会内に社会福祉士部会を結成した。試験が回を重ねる中で社会福祉士が増え社会福祉士に焦点化した組織化が待たなしの状況となった。伊東さんはこの動きの渦中にいた。1991年(平成3年)11月第3回社会福祉士全国研究集会(横浜集会)で激論の末社会福祉士に特化した新組織の結成が決議された。そして、1993年(平成5年)1月15日に八王子セミナーハウスで日本社会福祉士会設立総会が開催され、ここに社会福祉士国家資格者の全国組織が発足したのである。

その後の全国及び都道府県社会福祉士会の発展を見ると、社会福祉士会の結成の判断は歴史的に間違っていなかったと確信する。

伊東様はその推進役、リーダーとして重要な役割を果たされたと考えている。

3 伊東様からの問いかけ

①伊東様の伝えなかったこと

伊東様が伝えなかったことは、推測であるが、ふれることなく生涯を現場実践一筋に歩まれ、あるべき福祉を求め続けた伊東さんの真摯な人生そのものを指しているのではないかと感じている。

②伊東様の社会福祉士への期待

社会福祉士の存在感が薄くなっているのではないかと伊東様からの問題提起は、社会福祉士に対する期待の大きさの反映であると思う。その問題提起にどう応えるか、私見であるが、社会福祉士は、国家資格の有資格者であることから福祉制度・政策の担い手としての役割があり、この面でも有資格者としての専門性を発揮する責任がある。一方で、ソーシャルワーカーとして声なき声や制度の狭間のニーズを探り支援に関わっていくことが求められる。

社会福祉士会は、有資格者として結束する場であり、かつ、ソーシャルワーク実践の場を提供する組織だと考える。世界に開かれた組織でもある。この両側面のミッションに真摯に向き合い実践することが社会福祉士の存在感を高めることにつながると思う。

伊東様のご冥福をお祈りします。

【参考文献】

- 1.「日本社会福祉士会設立総会/社会福祉士研究大会」1993年1月15・16日
- 2.「神奈川県社会福祉士会の10年」社団法人神奈川県社会福祉士会2003年3月
- 3.「50年、そして明日へ 敬愛会50周年記念誌」2000年8月18日発行

〈2021 (令和3) 年度 理事会報告〉

※理事会は偶数月通常・奇数月臨時：
感染対策で会議形式はすべてオンライン会議

■第3回通常理事会 (通し開催回数第6回目) 2021年10月12日 (火) 19:30~21:15

議長: 隅河内会長 議事録署名: 出席全理事・監事 出席理事: 13名 監事: 吉田・東海林 事務局: 2名

審議事項〈議事全承認〉 議案1: 入退会審査(9月分)…入退会審査→9月入会4、転入1、転出0、9月末会員数3,122、県内登録者数18,997、組織率については、16.43%。 議案2: ばあとなあ神奈川名簿登録審査・後見人等候補者推薦、法人後見状況…名簿登録に係る異動状況: 10月1日登録者数638名。家裁名簿登載者数579名。新規登録者0名、抹消1名。後見人等候補者推薦の状況: 9月推薦依頼48件、推薦済24件、調整中23件、不受理0・取下げ1。法人後見9件。 議案3: 日本社会福祉士会事務委託契約…入退会事務及び会費等の預金口座振替による徴収事務、綱紀案件に関する事務委託の締結を行うことを承認。

協議事項〈全了承〉 ①理事欠員の補充…理事辞任に関し規則類を確認。 ②日本社会福祉士会都道府県社会福祉士会会長会議での協力依頼…本会は推薦協力をしない。 ③日本社会福祉士会入会促進キャンペーンに伴う本会の取り組みの考え方…日本社会福祉士会提案の入会促進策を受け協議。 ④第1回支部役員連絡会内容…支部役員連絡会での議事確認

報告事項〈全了承〉 ①日本社会福祉士会臨時総会及び会長会議 内容報告 ②正副会長動向報告 ③業務監督委員会報告 ④2021年度8月分までの会計執行状況報告 ⑤推薦後援状況報告 日本社会福祉士会依頼の後見委員会出版プロジェクト推薦したほか4件の各推薦の報告 ⑥9月14日開催理事会議事録報告

■臨時理事会 (通し開催回数第7回目) 2021年11月9日 (火) 19:30~21:30

議長: 隅河内会長 議事録署名: 出席全理事・監事 出席理事: 13名 監事: 吉田・東海林 事務局: 2名

審議事項〈議事全承認〉 議案1: 入退会審査10月分…入退会審査→10月入会3名、転入0、転出0、10月末会員数2名、県内登録者数18,997名、組織率16.44%。 議案2: ばあとなあ神奈川後見人等候補者推薦、法人後見状況…名簿登録に係る異動状況: 11月1日登録者数636名、家裁名簿登載者数577。新規登録者0名、抹消2名。後見人等候補者推薦状況: 10月推薦依頼49件、推薦済23件、調整中24件、不受理0・取下げ2件、法人後見9件。 議案3: 書庫センター契約…書類保管の対応: 日本通運株式会社との書類保管に関する請負契約を承認。 議案4: 組織率向上委員会委員追加委嘱…湘南東支部、川崎支部、から1名ずつの追加委嘱を承認。 議案5: 2022年度各受託事業受託に関する本会の考え方…本会次年度の受託事業(かがやき・はばたき・定着)の方向性を確認。委託依頼がある場合は受託継続。 議案6: 入会促進に関する本会の取り組み…日本社会福祉士会の入会促進対策に本会も同様の取り組みを検討。臨時代議員総会に提案する。 議案7: 理事欠員補充候補案…10月15日第2回選挙管理委員会にて理事補充候補者案が推薦され理事会で承認。臨時代議員総会審議予定。 議案8: 臨時代議員総会開催と議事案…第6号と第7号議案承認により、臨時代議員総会開催を承認。日程2022年1月29日(土)午前10時30分から12時までのオンライン開催。議題: 本会理事欠員補充候補案、入会促進対策案(促進対策にともなう規則改正)

協議事項〈全了承〉 ①2022年度事業計画及び予算策定にあたっての本会の基本的考え方…本会の事業計画は重点事業に4本の柱を掲げて進めてきている。他に意見等あれば要提案。 ②2022年度事業計画予算査定スケジュール…計画予算査定日程を検討。 ③故伊東初代会長追悼(金井元会長寄稿)広報依頼の検討 ④支部各種委員推薦の方法に関する本会の考え方…本会からの推薦方法を確認

報告事項〈全了承〉 ①「福祉専門職支援議連」議員に関する日士会からの協力依頼に関する経過報告 ②業務執行理事【正副会長動向】報告 ③支部役員連絡会(10月23日開催)報告 ④2021年度9月分までの会計執行状況 ⑤各事業部委員会2か月報告 ⑥支部活動報告 ⑦推薦後援状況川崎市依頼の住宅政策審議会専門部会ほか推薦派遣11件、県社協依頼の多文化高齢社会ネットかながわ県民講座第2回「外国につながる介護職員とともに働く現場からの報告」への後援 ⑧苦情受付状況報告 ⑨10月12日開催理事会議事録報告



月	日	開始時間	終了時間	研修名	概要	場所	主催	対象	費用
2	5	14:00	15:30	い〜すとの会	困りごと、相談など支部会員相互の意見・情報交換。お気軽にご参加ください	オンライン	湘南東	支部会員	無料
2	13	14:00	15:30	たまひよオアシス in 相模原	「コロナ禍でどうなった?」をテーマにケアマネ・後見活動の日常などについてゲストスピーカーを招いて話し合います。	①Zoomによるオンライン開催 ②さがみはら市民活動サポートセンター	相模原支部	会員及び 関心のある方 ①20名 ②8名 (いずれも先着順)	無料
2	13	13:00	17:00	ダブルケア講演会 & ハグミィサロン	前半:ダブルケアについて考える講演会。 後半:社会福祉士の会員同士の気軽なしゃべり場	オンライン (Zoom)	横浜支部	会員・非会員	無料
2	26	14:00	16:00	相模原支部研修会 ～小児病棟の子どもたち～ 長期入院中の子どもたちを 育む取り組み	独自に開発した楽つみ木を使い、行動変容を促す取り組みをボランティアで実践する萩野氏の講演。	オンライン (Zoom)	相模原支部	神奈川県社会福祉士会 会員50名 (先着順、 相模原支部会員優先)	無料
3	15	19:30	21:00	第4回情報交換会 (国際ソーシャル ワークデイ記念)	ワールドカフェ方式で参加者が自由に意見交換します。	オンライン (Zoom)	川崎支部	県士会会員、 川崎市在住又は 在勤の社会福祉士	無料
3	19	13:30	15:30	第6回支支部定例会	就労支援関係者による「障がい者と就労」第2回～社会参加と寄り添いの支援を学びあう	オンライン	湘南東	支部会員	無料
5	21	13:30	15:30	支部全体会	新年度事業計画、収支予算説明、定例会(テーマ検討中)、懇親会も予定しています(但しコロナ感染の状況次第)	オンライン (会議室同時検討中)	湘南東	支部会員	無料

開催を予定しております研修・公開講座等は、新型コロナウイルスの感染状況により、やむなく開催を中止、あるいは延期する場合がございます。ご迷惑をおかけ致しますが、何卒ご理解頂きますようお願い申し上げます。
なお、最新の状況につきましては本会のホームページをご確認ください。

<http://www.kacsw.or.jp/publics/index/234/>

神奈川県社会福祉士会 研修 講座

検索



編集後記

冬茜～ふゆあかね～

遅ればせながら「明けましておめでとうございます」。本年もお付き合いのほど、よろしくお願い致します。さて、ページを表紙に戻し、写真をご覧になってください。茜色に染まった夕焼けの写真を掲載していますが、新年の最初の号に夕景の写真を採用するか否かという問題について賛否はありましたが、ある想いを込めて掲載させて頂きました。冬茜とは茜色にそまった冬の夕焼け空をいいます。一口に「夕焼け」というと夏を連想させてしまいますが今の季節だと冬茜または寒夕焼(かんゆうやけ)、冬夕焼(ふゆゆうやけ)とすると季節の言葉として相応しくなります。

冬の太陽は瞬く間に地平線の彼方へ姿を消してしまう為この季節の夕焼け空は、そう長くは続かない。沈みながら解き放たれる際の一瞬の輝きに溶け込んだ、その深い「茜」とも「甚三紅※」と

も「緋」ともつかないその色は余韻すら残さずに静かな藍色に包まれゆく。凜とした冬空に広がるその色彩は色の少ない季節に一瞬だけ「花を咲かせた」ようでもあり、空を見つめる者に様々な印象を宿す。冬の夕暮れは切ないほど短いが、潔く消えてしまうからこそ、空を見上げる者の心を静かに揺さぶることであろう…。

広報に携わる者として「紙媒体」としてはお手元に届いた瞬間から過ぎ去ってしまっても、読む者の心に残る、そんな存在でありたいと願っている。時代と共に紙媒体のあり様も変化している現実を受け入れつつも引き続き、紙面とウェブを連動させながら情報の鮮度や密度をより高く、タイムリーな情報をお届けできるよう精進して参ります。

※甚三紅…じんざもみ(日本の伝統色)

(広報委員長:日向 明)